

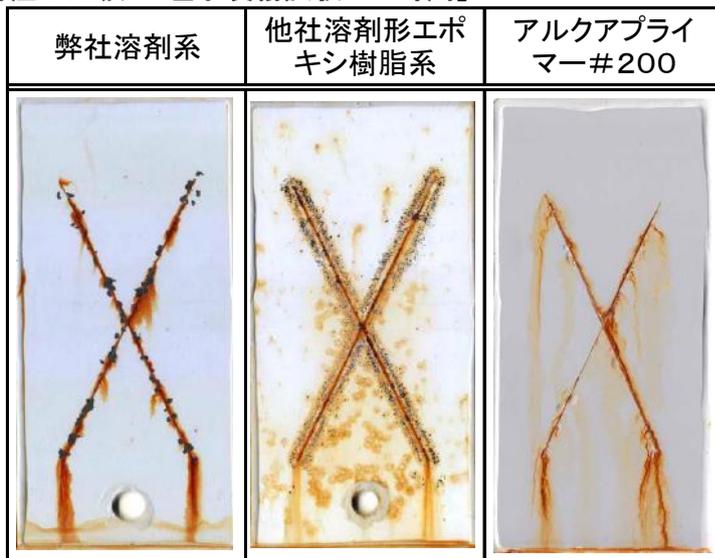


アルクアプライマー #200

有機溶剤中毒予防規則、PRTR非該当

高い付着力と防錆力を誇る「水性」「1液」「常温乾燥形」としては最強のプライマー
強力な密着力和高いバリエーションにより基材をサビから守ります。

【防錆性の比較…塩水噴霧試験 500時間】



*当社試験結果 (膜厚35 μm)



標準塗装仕様

| 工程 | 使用塗料 | 標準使用量 | 標準膜厚 | 塗装間隔 | 希釈剤 | 希釈率 (%) | 推奨塗装方法 |
|------|---|-------------------|-------|--------|-----|---------------|----------|
| | | kg/m ² | dry | (23°C) | | | |
| 気象条件 | 気温 5°C以上、湿度 80%以下 | | | | | | |
| 素地調整 | 【理想】 Sa2以上：十分なブラスト 拡大鏡無しで、表面には目に見える油、グリース、泥土および弱く付着したミルスケール、さび、塗膜、異物が無く、残存した全ての汚れは固着したものである事 | | | | | | |
| | 【必須】 St2(2~3種ケレン)以上：十分な手工具および動力工具仕上げ 拡大鏡無しで表面には目に見える油、グリース、泥土および弱く付着したミルスケール、さび、塗膜、異物が無い事 | | | | | | |
| 下塗り | アルクアプライマー #200 | 0.22 | 35 μm | 8時間以上 | 水 | 0 (無希釈を推奨) | エアスプレー※1 |
| 上塗り | アルクアマリントップ | 0.20 | 35 μm | | 水 | 0 (無希釈を推奨) | エアスプレー※2 |

* 上記数値は全て標準の値です。塗装機や塗装方法や塗装条件、下地状況により多少の幅を生じる事があります。

※1 ハケ・ローラー、エアレススプレー塗装には、消泡性および粘性を最適に調整した「アルクアプライマー#200S」をご推奨致します。

※2 ハケ・ローラー、エアレススプレー塗装には、消泡性および粘性を最適に調整した「アルクアLCコート」をご推奨致します。

試験成績表 (社内試験による)

| 試験項目 | 試験内容 | JIS規格番号 | 試験結果 |
|---------|----------------------|----------------|---------|
| 光沢 | 60度鏡面光沢計 | JIS K 5600-4-7 | 5.0以下 |
| 耐衝撃性 | デュポン式、1/2インチ、500g | JIS K 5600-5-3 | 50cm合格 |
| 鉛筆引っかき値 | 三菱ユニー (破れ) | JIS K 5600-5-4 | HB |
| 付着性 | 1mmコバン目 (残数/100) | JIS K 5600-5-6 | 100/100 |
| 耐水性 | 23°C、イオン交換水没水 | JIS K 5600-6-2 | 168時間 |
| 耐塩水噴霧性 | 5%塩水、35°C、相対湿度95~98% | JIS K 5600-7-1 | 480時間 |

概要

| | |
|-------------------|---|
| 主用途 | 車両、建築機械、工作機械、農業機械、産業機械、 金属一般の下塗り用 |
| 樹脂系 | 水性エポキシエステル樹脂系 |
| 荷姿 | 16kg、4kg |
| 色 | 各色 |
| つや | つや消し (光沢値 5.0以下) |
| 希釈剤 | 水 (清水… 飲用可能な水) |
| 推奨塗装方法 | エアスプレー |
| 劇物表示 | 非該当 |
| 消防法区分 | 非危険物 |
| 有機溶剤中毒予防規則 | 非該当 (注) グリーン、ブルー系の濃色では有規則に該当する場合があります、 詳しくは弊社営業担当者にお問い合わせください。 |
| 化学物質管理促進 (PRTR) 法 | 非該当 |
| 適合上塗り塗料 | アルクアマリントップ、アルクアフレッシュ |

注意事項

- ① 塗装時0°C以下、塗装後0°C以下の気温が連続する事が予想される場合や、塗装時の湿度80%以上の場合は施工しないでください。
- ② 顔料が沈降しやすいので、使用前に十分に攪拌してご使用ください。
- ③ 必要な保護具 (帽子、保護メガネ、マスク、手袋など) を着用し身体に付着しないようにしてください。
- ④ 浮きサビやルーズな黒皮、旧塗膜面の発サビや塗膜の浮きなどは十分に除去してください。
- ⑤ 素地調整を行った場所は、その日のうちに塗装を行う事をご推奨します。
- ⑥ 自然発火の危険性がありますので、塗料の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は、廃棄するまで必ず水に浸けるか、密栓のできる容器の中に保管してください。
- ⑦ 過剰に希釈をするとタレや発サビの要因となったり、塗膜が薄膜となり本来の塗膜性能が発現しない場合があります。
- ⑧ 希釈には水道水など飲用可能な水をご使用ください。
- ⑨ 水性塗料ですので溶剤系塗料のシンナーを使用した場合、塗料に不具合を生じます。
- ⑩ 塗装後は雨など水分のかからない場所で十分に乾燥させてください。
- ⑪ 常時浸水される部分への使用は避けてください。
- ⑫ 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にてご使用ください。
- ⑬ 塗装に使用した塗装器具類は使用後速やかに洗浄してください。
- ⑭ 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ⑮ 塗料漏洩の原因になりますので、保管、運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ⑯ 本来の目的以外には使用しないでください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート (SDS) をご参照ください。